

奈良県天川村洞川地区の観光における取り組み —修験の観光資源化と「温泉むすめ」を例に—

西 谷 瑞 希

論文要旨

筆者は、2022年から2024年にかけて、現在でもなお女人禁制を維持している大峯の「女人禁制」の現地調査を行ってきた。その中で、大峯の「女人禁制」や洞川地区に今後影響を与えうる存在として、同地域の観光振興の動きに注目し、修験の里と宿坊として栄えてきた歴史を持つ洞川地区の変化について考察することにした。大峯の玄関口に位置し修験道で栄えていた洞川地区は、現在、講の減少に伴う新たな地域活性化の手段として修験道を用いた観光振興や、新たな客層の発見を狙った美少女キャラクターのプロジェクト（以下「温泉むすめ」）の採用などに取り組んでいる。そこで本論文では、洞川地区内の洞川温泉の一部施設が参画している「温泉むすめ」を取り上げ、「温泉むすめ」をどのようにして活用し、宗教的魅力以外で観光客を獲得しようとしているかを明らかにした。また、観光客と講の増減について洞川温泉観光案内所と各旅館のデータをもとに論じている。

研究方法としては主に現地での聞き取り調査とデータ分析を中心に行った。

キーワード：大峰山、洞川、修験、観光、温泉むすめ

1. はじめに

筆者は、2022年から2024年にかけて、現在でもなお女人禁制を維持している大峯の「女人禁制」の現地調査を行ってきた。「女人禁制」についての聞き取り調査を行う中で、修験の里として知られる洞川地区が修験以外の魅力を打ち出すことで観光客の増加を狙っていることがわかった。観光客の増加を狙う過程で、洞川地区のアイデンティティの1つである大峯が持つ「女人禁制」という特徴によって、洞川地区と観光客に何かしらの制限が生じると考えられる。そこで、本稿では「女人禁制」や洞川地区に今後影響を与えうる存在として、同地域の観光振興の動きに注目したいと思う。

これまでの調査¹を踏まえて、大峯の玄関口に位置し修験道で栄えていた洞川地区が講

の減少に伴う新たな地域活性化の手段として、修験道を用いて観光の振興を図っていることや、新たな客層の発見を狙った美少女キャラクターのプロジェクトの採用などに取り組んでいる現状について紹介したい。そして、本稿では地域活性化における宗教文化資源の活用の可能性と限界を、美少女キャラクターのプロジェクトの採用という洞川地区の事例をもとに検討する。

2. 奈良県天川村洞川地区の観光の現在

(1)奈良県天川村の概要

調査地である洞川地区は、奈良県南部の天川村北東部標高820mに位置している。洞川地区の人口は2024年8月末時点では483人、天川村全体では1,209人である。公開されている「人口ビジョン」²⁾によれば、過去25年では村全体を通して高齢者が増加している。特に近年は後期高齢者が増加したことにより、高齢者の死亡率が上昇している。国税庁による産業別就業者数を見ると、35年間で第一次産業は41.1%から7.9%に、第二次産業は21.0%から15.0%に減少している。一方で第三次産業は37.9%から77.1%へと増加している³⁾。全国のデータを確認しても第一次産業と第二次産業は減少しており、第三次産業は増加している⁴⁾。全国的な傾向と大まかには一致しているが、全国規模では医療・福祉が最も増加し、次いでサービス業（他に分類されないもの）が増加となっている。対して天川村ではサービス業（他に分類されないもの）は減少し、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業などが増加している。

洞川地区は約1300年前に役小角によって開かれ、修験道発祥の地とされる大峯連山の麓にあり、大峯を登拝する修験者たちのための宿坊として栄えてきた。過去に2度起きた大火によって記録は残っていないものの、現在洞川地区で形成されている旅館のうち、主要な旅館の一部は江戸時代に講社が利用するための旅籠屋として始まったところもある。洞川温泉観光協会が現在配布している洞川温泉マップに記載されている情報では、宿泊施設は創業500年という老舗を含めて19、飲食店17、陀羅尼助店14、土産物店・その他が26軒ある。観光名所が15箇所あり、2024年4月25日からリニューアルオープンした「洞川温泉ビジターセンター」が地区の入り口にある。洞川温泉は1983年に給湯を開始しており⁵⁾、近年では夜間に旅館街が提灯をぶら下げている光景が話題となったことで、女性観光客からの人気が上がっている。また、大峯を含む一帯が1936年に吉野熊野国立公園に、2004年にはユネスコ世界遺産に「紀伊山地の霊場とその参詣道」の一部として登録されている。

(2)大峯講の衰退と洞川地区

1980年代から現在における講の実態把握は困難である⁶。直近では新型コロナの流行による行動制限により、高齢化を理由に閉じる決断をした講や活動停止になったままの講があり、調査はより困難となっている。天田顕徳によると、1980年の時点で大峯では大規模な講と縮小している講という格差が生じている⁷。また、自営業の男性が中核を担っていたと考えられる「阪堺役講」は、就業形態の変化や人口移動により衰退傾向にある⁸。こうした講集団の衰退は、講の宿坊として繁栄していた洞川地区に大きな影響を与えていると考えられる。

筆者は今回、2024年7月21日、8月2日～3日にかけて、洞川地区内の7軒の旅館に対して、講による利用状況の変化を直近5～10年に区切った上で、聞き取り調査を実施した⁹。帳簿の閲覧は個人情報保護の観点から不可能であり、また詳細な変化はそのまま旅館の収入状況を推測出来てしまうため、本稿では各旅館の体感として報告する。

講社による利用がないため調査を断られた旅館も中にはあったものの、宿坊としても機能している旅館は総じて体感5割減少していると述べていた。また、講によっては参加人数が減少している例もある。旅館にて聞き取り調査を行っている最中に、偶然にも旅館を訪れた茶屋関係者からも講による利用状況の変化を聞き取ることが出来た。この茶屋は清浄大橋のすぐ側に位置している。茶屋関係者によると、講による茶屋の利用は7割も減少しているという。

下記のデータは、地区内の旅館（以下旅館A）から提供していただいた2019年から5年間の講の利用人数の変化である（データママ）。旅館Aは最低でも元禄元年には営業を開始した旅館である。

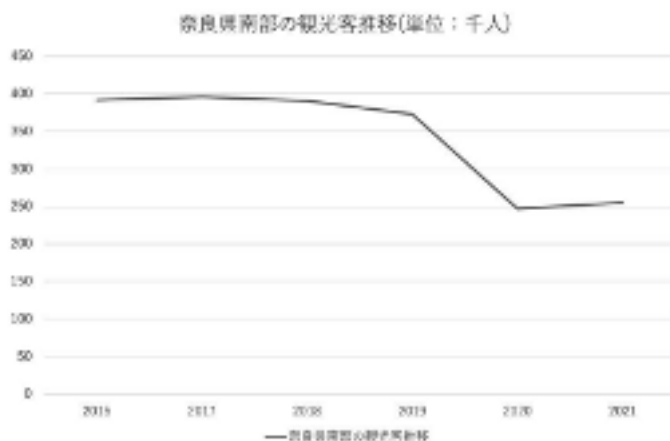
美乃利講：25 ～ 30
 播州岩組：40 → 約 20
 播州光明：3 ～ 4
 錫杖会：20
 和歌山末広講：50 → 30
 広田神変講：30
 紀ノ川講：100 → 70 → 30
 丹波三輪和講：10 → 3
 丹波岩講：200 → 13 → 2
 大北山栄講：50 → 15
 丹波照明講：80 → 15
 太鼓会：15
 出雲大社婦人部：90 → 40

このデータからは、推測通り講の衰退に新型コロナの流行が影響しているということがわかると言えるだろう。しかし、講による利用が減ったとはいえ観光客による利用が増加しており、大きく収入に影響は出ていないそうである。旅館 A の関係者は、2022年に行なった聞き取り調査にて「これからは講が衰退していくので観光に力を入れなくてはならない」と発言しており、講の衰退によって洞川地区が大きな方向転換を迫られていると言える。

(3)洞川地区の観光状況

では、洞川地区はどのように観光の振興を行っているのか。本節では洞川地区に関する観光の状況についてまとめたい。取り組みの例としては、例えば地区周辺の豊かな自然を利用した桜や紅葉祭りなどの観光イベントをはじめ、天川村フォトコンテスト、音楽フェス、天川村洞川温泉ポップカルチャーイベントの開催などが挙げられる。しかし、多くのイベントが自然環境に依存しているために期間が限られており、年間を通じた集客には困難を抱えていると言わざるを得ない。

奈良県の公式ホームページでは毎年、「令和〇年奈良県観光客動態調査報告書」と題した PDF データを公開し、具体的な数字を用いて観光客の動態調査を報告している。公開されているデータをもとに、洞川地区の観光状況を見ていく。この報告書では奈良県南部として五條市、吉野町、大淀町、下市町、黒滝村、天川村、野迫川村、十津川村、下北山村、上北山村、川上村、東吉野村がまとめられているので、厳密には天川村のみのデータではない。また、確認できる報告書で最も新しいものが令和 3 年のデータなので、それを用いることにする。

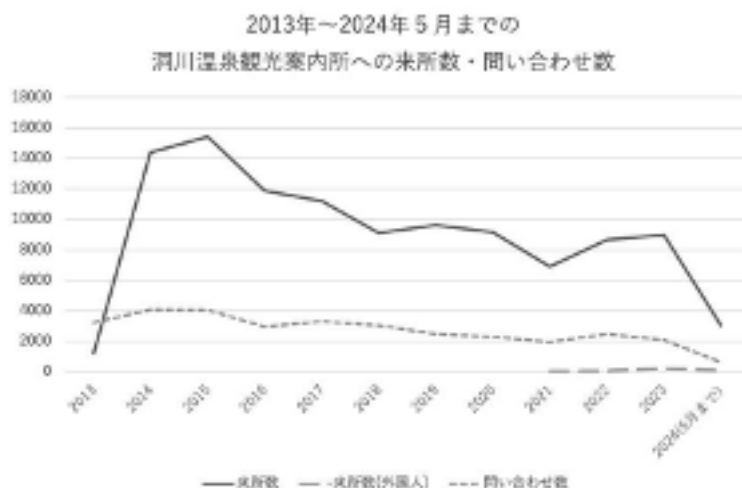


グラフ 1：データは「令和 3 年奈良県観光客動態調査報告書」奈良県南部の項目より グラフ化は筆者によるもの

2021年の奈良県全体の観光客数は2,415万人である¹⁰。前年と比べて208万人（7.9%）減少している。新型コロナ感染拡大前の2019年と比較すると2,087万人（46.4%）と大幅に減少しているが¹¹、グラフ1からわかるように、天川村洞川地区を含む県南部の観光客数は2020年と比べて8万人（3.5%）増加している¹²。

一方、洞川地区に限定してみれば、2019年の洞川地区の入込観光客数は約28万人と天川村全体の約43%だが、日帰り観光客が多く宿泊者数は約28万人のうち約15%にとどまっている¹³。そのためほとんどの観光客の滞在時間は短く、観光消費も少ない。また、観光資源が自然に依存しているため、大型連休の天候や桜の開花時期の影響を受けやすい¹⁴。

以下のグラフは「洞川温泉観光案内所」に筆者が2013年4月1日～2024年5月31日の期間にて訪問ないし電話で問い合わせた人数データをもとに作成したものである。



グラフ2：洞川温泉観光案内所から提供されたデータをもとに筆者がグラフ化したもの

2016年からは減少傾向にあるが、後述する地元関係者らの実感と、先に示した奈良県による動態調査をもとに考えれば、観光客は旅行先を決める際にあらかじめ調べており、観光案内所に訪れる必要がないと考えることができる。この理由の1つとして、洞川温泉の知名度が低いため、洞川温泉を知ったタイミングでインターネットで検索し、大峯山洞川温泉観光協会によるホームページや天川村公式サイトにアクセスするというパターンが挙げられる。2020年と2021年は新型コロナ感染拡大の影響を大きく受けていると考えられるが、その一方で、2022年は所謂コロナ禍中にも関わらず増加している。観光案内所関係者によれば「知名度の低さ」、「人が少なそう」、「感染しにくそう」、「県外または近畿外に行き辛いから」といった理由が考えられるという。2023年は感染対策が変化したため大きな

観光地に観光客を取られ、例年通りの人数に落ち着いているようであるが、急激に落ち込んでいるわけではない。コロナ禍中に訪れた人がリピーターになっている可能性が考えられる。他にも鮎の塩焼きのお店などがTikTokで「バズる」ことによって長蛇の列が形成されるなど、SNSを通して若者の中で話題になっているようである。しかし、長期的にみれば観光地としての洞川地区の活性化は十分ではないように思われる。

(4)活性化への取り組み－修験道の観光利用

こうしたある種衰退していると言える洞川地区をどのように活性化させるかという問題に、奈良県や天川村は直面している。「洞川地区まちづくり計画」として認定されている「地域再生計画」では、概要の部分で以下のように説明されている。

点在する観光施設を集約し、不足している機能を付加し拠点施設として整備することにより、観光資源である「世界遺産」「吉野熊野国立公園」の魅力を最大限活かし修験道体験や世界遺産の山を眺望する登山の拠点施設として活用することにより、滞在時間の延長、観光消費額の増加、宿泊者数の増加を図る¹⁵

ここで注目したいのは「修験道体験」という言葉である。計画本文には、講の減少と衰退を理由として次のように書かれている。

講だけを相手にした観光業では生計が立てられなくなり、個人観光客やレトロな雰囲気を売りに若い女性をターゲットにしたPRを行っているが地域の物語と相互せず、他の観光地との価格競争に巻き込まれ客単価が低い観光業となっている¹⁶

天川村はこの問題への対策として「修験道体験」を打ち出し、インバウンドを主なターゲットに設定して宿泊者数の増加を狙っている¹⁷。天川村公式サイトでは、「洞川地区まちづくり計画」をもとにしたと考えられる「修験道体験」が紹介されている¹⁸。公式サイトでの説明では、修験道と体験時の説明・注意事項として体験がレジャーではなく修行であることが強調されている。現在新型コロナの感染対策により団体ツアーとされている「一日入門」は実施されていないが、個人ツアーを申し込むことができる。個人ツアーの期間は各年の5月9日～9月22日となっている。「一日入門」の問い合わせ先は洞川温泉観光案内所だが、個人ツアーの問い合わせ先は奈良県ビジターズビューローとなっている。

大峯は「女人禁制」なので「修験道体験」の「大峯山山上ヶ岳コース」の対象は男性の

みだが¹⁹、女人大峯とも呼ばれている稲村ヶ岳で行う「稲村ヶ岳コース」の対象は男女両方である²⁰。これらのコースは観光客の要望に合わせてカスタマイズすることが可能だが、基本的にそれぞれ236,000～303,000円と221,000～301,000円の価格設定となっている。この料金には大和八木駅から天川村までの往復タクシー代・宿泊代・昼食代・天河大辨財天社初穂料・水行を行う龍泉寺への志納料・先達謝礼・行衣一式代・水行衣代・洞川温泉入浴券・ごろごろ水1本・現地係員アテンダント費用が含まれている。天川村の観光において大きな問題の1つが立地の問題である。車を用いれば大阪府内からもそう遠くはない場所ではあるが、山での運転に慣れている必要があり、冬季は路面凍結という問題が新たに出てくる。往復タクシーに乗ることができる大和八木駅は近鉄特急の停車駅であり、天川村の立地という問題をツアーに送迎を組み込むことによって解決している。

このように「修験道体験」として、修験道を新たに観光資源に活用することで地域を活性化させようという動きをみせているものの、修験道を全面的に観光利用できない大きな理由の1つとして、山上ヶ岳の「女人禁制」という問題がある。もちろんツアーでは女性のために「稲村ヶ岳コース」を用意しているが、「修験道体験」自体がどれだけ利用されているかという問題もあり、必ずしも上手くいっているわけではないようである。

「修験道体験」にはもう1つ問題点がある。それは天川村と洞川地区の区別である。行政上洞川は洞川地区として天川村に組み込まれているが、洞川は財産区でもあり、方言が天川村の中心部と異なっていることや、住民の実感としても修験道に関わってきたという背景を考えても、全く別であると考えて良いだろう。ツアー行程に含まれている天河大辨財天社は大峯と深い関係を持っているが、洞川地区だけでなく天川村にも観光客が訪れるきっかけを作りたいという意図もあるように感じられる。この背景には林業が衰退している天川村と観光業で成り立つ洞川地区という関係が表れているのではないか。また出羽三山の手向地区では山伏が積極的に観光についての議論に参加している様子が確認できるが²¹、「修験道体験」を計画するにあたって十分に大峯の山伏たちが議論に参加していたかは明らかではない。

(5)観光と「女人禁制」

大峯山の「女人禁制」について2022年8月6日、同10月13日に行った聞き取り調査にて、「女人禁制」と観光についても質問を試みた。対象者は大峯関係者として大峯山龍泉寺現住職1名、地元関係者として洞川地区現区長兼旅館A総大将、若大将の2名、計3名である。質問内容は「経済を理由に女人禁制が開放されることはあるか？」である。

大峯山龍泉寺現住職：「女人禁制」の開放が観光客の増加に影響を与えるとは考えられない

洞川地区現区長兼旅館 A 総大将：経済を理由に開放することに断固拒否の気持ちがある。講は減少しているが、実感として観光客は増加傾向にある。

若大将：若い世代の中には開放することで観光客の増加を図るべきではないかという意見が出ているのも事実。

このように世代によって意見が分かれてはいるものの、開放は現実的ではないため、観光客増加のためには大峯の持つ修験道以外の地元の魅力をアピールする必要がある。

実際に洞川地区を回ってみると、洞川温泉の一部店舗が温泉美少女キャラクター擬人化プロジェクト（以下「温泉むすめ」）を取り入れていることが明らかになった。この「温泉むすめ」は所謂コンテンツツーリズム²²であり、こうしたプロジェクトの採用には従来の客層とは異なる客層に拡大するという目的があると思われるが、洞川地区が「女人禁制」である大峯の麓に位置しているなかで、美少女キャラクターである「温泉むすめ」を活用しているという動きは大変興味深いものである。

3. 「温泉むすめ」とは

(1) 「温泉むすめ」の概要

最初に、「温泉むすめ」がどういったプロジェクトなのか簡単にまとめてみたい。「温泉むすめ」は株式会社エンバウンドが2017年に立ち上げたプロジェクトで、アニメや漫画、キャラクターや声優などの IP（知的財産権）を通じ、日本全国の温泉地や地方都市の魅力を国内外に発信するために作られた「地域活性化プロジェクト」である²³。具体的には、全国の各温泉地をモチーフとした想像上の二次元キャラクター（人ではなく架空の神様）を制作し、メディアミックスを展開している上で、実質的な主人公として草津温泉の温泉むすめを起用している。そして全国の温泉地に任意でキャラクターを利活用できる形で提供している。この場合、温泉地がキャラクターを使う場合はロイヤリティ・ライセンス費用など一般的な IP 利用にかかる費用は全て無償となっている。このプロジェクトの HP によれば、立ち上げられた経緯は、福島県出身である社長の橋本竜氏が東日本大震災をきっかけに現地へ訪れる観光の重要性を意識したからであるという。

「温泉むすめ」には大まかなストーリーが存在している²⁴。スクナヒコが日本一の温泉むすめを決める大会「温泉むすめ日本一決定戦」を開くことを決め、アイドルとして競い

合うことになるという内容である。温泉むすめ達は様々なアイドルユニットを組んでおり、中心的に活動を行っているユニット「SPRINGS」には草津温泉の温泉むすめ「草津結衣奈」が参加している。温泉むすめ達は東京お台場にある温泉むすめ師範学校に通い、温泉地の魅力の発信方法などを学んでいる。「お社渡り」という神通力を持っており、転移先の鳥居をイメージすることで各地の神社と神社をワープすることができる。具体的にイメージする必要があるため、初対面時に鳥居の画像を送りあうという²⁵。

2017年に内閣府からクールジャパン企業に選ばれており、現在は23の国と地域の温泉むすめ達が観光大使／温泉大使に任命されている²⁶。2019年には観光庁から地方でのイベント開催や温泉地の啓蒙活動が評価され、正式に後援を受けることになった。2021年には観光庁・文化庁・スポーツ庁共催の「スポーツ文化ツーリズムアワード 2021 新しい観光賞」に選出されている²⁷。

本プロジェクトの目的は、キャラクターを演じる声優による現地ロケやトークイベントを温泉地で開催し、温泉地や地域の魅力を幅広く伝え、現地への来訪を促進することである²⁸。そのため、特徴として都心部（東京・秋葉原）での関連グッズの販売や通販が禁止されていたことが挙げられる。あくまで地域活性化が目的であり、現地へ人が訪れるようにするためである。また、1店舗1グッズの取り扱い、同じグッズは別店舗では販売不可というルールがある。しかし、東京での新グッズの販売²⁹やイベント参加³⁰が確認できる。現在、日本各地の温泉地に宿る「下級」の神さまとして、125柱の温泉むすめとナビキャラクター1柱と1人が公開されている（北海道地方7柱、東北地方20柱、関東地方17柱、中部地方29柱、近畿地方15柱、中国地方12柱、四国地方6柱、九州地方18柱、台湾1柱）³¹。「温泉むすめ」の設定が女性差別的だとSNS上で炎上したことも取り上げるべきであるが、本稿の目的は洞川温泉における取り組みの紹介と検討であるため、今回は省略する。

(2)「温泉むすめ」が持つと考えられる宗教的要素

「温泉むすめ」は興味深いことに単なる美少女キャラクターではなく、キャラクターの設定やストーリーに宗教的な要素が散りばめられている。整理すると次の6点となる。

- ① キャラクターが人間ではなく神様であるという設定。温泉とお酒の関係を考え、年齢不詳である神様なら飲酒可能ということが理由であるとされる。
- ② 温泉むすめ自身が「下級」ではあるものの神様という設定を持ち、ナビキャラクターの1柱はスクナヒコ³²である。ナビキャラクターのもう1人は人間である。
- ③ 温泉むすめは各温泉地にある神社の鳥居から違う鳥居までワープ出来る「お社渡り」という神通力を持っている。

- ④ 関連グッズがファンによって「祭壇」に「奉納」されている。この現象は公式ガイドブックでも「祭壇」という言葉を用いて紹介されている³³。
- ⑤ 温泉むすめの等身大パネルが「御神体」として扱われている³⁴。公式ガイドブックではパネルと記載されている。
- ⑥ 公式ガイドブックではTシャツのグッズが「聖地巡礼」のアイテムとして紹介されている³⁵。

これら6点をもとに「温泉むすめ」は宗教的プロジェクトであると断言することはできないが、各温泉地の魅力を発信するにあたって宗教的要素を意識していると言える。

(3)温泉むすめの先行研究

現在「温泉むすめ」に関する先行研究は、渡辺賢治によるものがほとんどである。渡辺は、関連グッズを「祭壇」に「奉納」することや等身大パネルが「御神体」として扱われていることから、「温泉むすめ」の宗教表象という点に注目している³⁶。渡辺によれば、本プロジェクトのナビキャラクターであるスクナヒコや温泉むすめが「下級」の神さまであること、「お社渡し」、各温泉むすめの設定が各温泉地の文化を意識したものになっていることから、「温泉地の伝統文化を再駆逐しており、そこには宗教表象が各温泉地の物語の再構築に影響を与えている可能性」³⁷に言及している。

次に、具体的に洞川温泉の「温泉むすめ」について紹介する。

4. 洞川温泉の「温泉むすめ」とその取り組み

(1)洞川温泉の「温泉むすめ」



図1：洞川蓮の「御神体」と「祭壇」と「奉納品」の写真。
筆者による撮影。

現在公開されている洞川温泉の温泉むすめは「洞川 蓮」である。設定は「物腰やわらかで、王子様みたいなむすめ。温泉むすめでありながら男子のように育てられた。誰にでも優しく、無自覚な人たらしであるため、知らないうちにフラグを立ててしまいがち。誕生日：6月7日、星座：双子座、血液型：A型、身長：173cm、趣味：登山、特技：利き水（どこの水かわかる）、好きなものが女の子と水、苦手なものは男性。公開日は2018年2月16日」38となっている。元々は設定にフェミニストという文言があったそうだが、プロジェクトの炎上によって修正されたと洞川温泉の関係者は語っている。これらキャラクター設定には、「大峰山」、「女人禁制」、名水百選に選ばれている「ごろごろ水」という洞川地区の持つ特徴が反映されており、土地の持つ物語性と関連させながらキャラクターを浸透させていくことができるように共有されているように考えられる。なお、大峯という修験道の中心的拠点にある洞川の温泉むすめに修験道が直接的に使われていない理由として、2018年1月23日に公開された犬鳴温泉の温泉むすめ「犬鳴山 命」の趣味が修験道の修行という設定になっていることから、重複を防ぐ目的があったのではないかと推測される。

(2)「温泉むすめ」の取り組み

2024年現在で洞川温泉にて「温泉むすめ」に参加している店舗は4軒である。詳細を述べる前に、参加店舗と参加内容をまとめる。

旅館 A：バスタオル5,000円、等身大パネル・バスタオル付き宿泊プラン（筆者の利用時点では2人で約7万円）

茶屋 B：サイン入り等身大パネル、オリジナルパネルの展示、オリジナルアクリルスタンド1,000円、関連グッズ以外を1,000円以上購入するとコースターかステッカーを配布

陀羅尼助店 C：アクリルキーホルダー700円、陀羅尼助売り子バージョンの陀羅尼助丸1,320円、温泉むすめのトレード缶バッジ200円

観光施設 D：マフラータオル2,500円

洞川温泉観光案内所：新衣装の等身大パネルを置く予定

参加店舗のみの展開に限らず、2023年が1回目の開催である「天川村洞川温泉ポップカルチャー」への参加や、毎年8月3日に開催されている「行者まつり」にて新衣装パネルの初披露などが行われている。このパネルは、一箇所にファンが集まらないようにするため、洞川温泉観光案内所に配置される予定だという。また、イベントでは店舗 B、C にて買い物をするかスタンプラリーの景品として限定グッズの大しおりの配布を行ったりもし

ている。

「洞川 蓮」に関する情報発信のために2023年6月に開設された公式SNSのX（旧Twitter）の現在のフォロワー数は628人である³⁹。公開日は2018年だが、実際に洞川温泉で取り上げられるようになったのは2022年9月頃からである。採用まで時期がずれている理由はプロジェクト側が各温泉地の協会等へのコンタクトや交渉を経ることなく制作し、どう利用するか、あるいは公開停止を求めるかは温泉地に委ねられているからである。

全体として洞川地区では「温泉むすめ」はあまり知られていない。伊香保温泉のような大きい温泉地には温泉むすめのラッピングがされた自動販売機が設置されている場合があるが、その他の温泉地と比べて力の入れ具合が限定的で小さいように思われる。このように小規模なのはプロジェクトに期待して参加する店舗数が限られているためだと考えられる。

(3)「温泉むすめ」についての聞き取り調査

参加している4軒を対象として2023年8月23日～24日と2024年7月21日、8月2日～3日、9月5日に聞き取り調査を実施した。主な質問は次の4問である。①「温泉むすめ」に参加した理由②いつから参加したのか③「温泉むすめ」を目的に来訪する客について④「温泉むすめ」による集客・経済的効果は実感できる形で反映されているのか。質問の番号に返答を記す形で調査結果をまとめる。

旅館Aは、現存している記録で確認することができる範囲では、少なくとも元禄元年から続いている老舗旅館である。約30年前からいち早く観光に目を向けており、改革を行っている。部屋を潰して露天風呂を作ったほか、大浴場を日帰り温泉として利用できるよう改装している。

- ① 洞川温泉で参加している旅館がなかったことから知人に頼まれて参加した。最初はバスタオルのみだったが、要望があり宿泊プランを設置した。
- ② 2022年の秋頃から
- ③ 宿泊プランの利用者はほぼおらず、2023年8月時点で1桁だという。全体の何割なのかは収入を推測できてしまうため非公開。この理由を旅館は基本2人以上で利用するということに加え立地が悪くファンがあまり来ていないと関係者は推測している。グッズ自体は売れているものの、最初に注文した50枚がまだはけていない。
- ④ 経済効果込みで実感は0であり、バスタオルに関しては旅館側の利益はほとんどない。売り方次第で参加店舗が増加するかもしれないが、初期費用が高いことと美少

女キャラクターへの忌避感から参加したくない店舗がある。

茶屋 B は2021年4月に開店し、2024年9月に諸事情により閉店した。今後についてはまだ未確定であるものの、引き続き洞川温泉内で営業を続けていく予定はある。簡単な土産物を販売しており、洞川温泉で最初に「温泉むすめ」に参加した。サイン入り等身大パネルの展示のほか、各地の温泉むすめのグッズ「奉納」やファンによる交流ノートへ多数の書き込みが見られる。

- ① 「温泉むすめ」は全国的に大きなコンテンツになっており、洞川温泉の温泉むすめが放置されていたので従来とは異なる観光客を狙って採用した。面白いことになるのではないかという期待もある。修験道と山岳信仰の文化を伝える1つの助けになれば嬉しい。
- ② 2022年9月から販売開始。
- ③ コロナ禍にオープンしたこともあり客数がなかったが、「温泉むすめ」目的の人が一気に増えた。交流ノートでファン同士がコミュニケーションをとることができることが要因の1つではないか。人によっては何度も洞川地区に来ている。
- ④ 「温泉むすめ」のファンは大半が男性だが、少ない女性ファンが最も多いのが「洞川 蓮」なので、「女人禁制」ながら女性も楽しめるというアピールの1つになるように色々考えていきたい。

陀羅尼助店 C は明治5年に開業し、戦時中は休業していたものの明治25年から再開している。陀羅尼助丸のほか、葛湯やキハダソーダの販売もしている。

- ① 10代の息子がこうしたコンテンツに関心があったから。
- ② 2022年10月から。
- ③④ アクリルキーホルダーの売れ行きがとくに良い。

観光施設 D は村の持ち物であるが、現在の経営者に変わったのが約10年前である。川魚のつかみとりもできる飲食店で、各旅館に魚を卸している。

- ① X での茶屋 B の商品紹介を見て関心を持ったから。
- ② 2022年秋から。
- ③④ グッズの売れ行きがよく、2023年の夏に一度売り切れになっている。2024年8月時点では再販は未定だったが、9月から再販している。

聞き取り調査の結果、老舗や新規が関係なく参加していることがわかった。反対に修験道に関わる土地というアイデンティティなどから「温泉むすめ」の美少女という設定を嫌がり、参加しない店舗の存在も明らかになった。茶屋 B の回答からは、大峯の持つ宗教的特徴を「温泉むすめ」を活用することで、現実に大峯と洞川地区が抱えている「女人禁制」や講の減少・衰退という問題から切り離されたコンテンツをもとに、洞川温泉を盛り上げていこうとする努力が見られる。

茶屋 B と陀羅尼助店 C に温泉むすめのファンが訪れている一方で、旅館 A にはその実感が見られないという格差は一体何なのだろうか。旅館と違い気軽に入られる店舗ということも関係しているかもしれないが、温泉地内での周遊が十分になされていないという理由が最も大きいと考えられる。「温泉むすめ」の採用の動機のほとんどがコンテンツへの関心であり、店舗に関わる人間の中で完結してしまい、洞川温泉の内外へと上手に広げられていないという課題がある。参加店舗が多くはないという課題も、参加への初期費用が回収されるのかという不安が関係しており、今後増加していくとは言い切れない状況にある。

5. 考察と今後の展望

洞川地区による温泉をメインにした観光への取り組みは1983年からと歴史が浅く、さらに注目が集まったのは最近である。新型コロナの感染拡大の影響もあって各取り組みの結果が出るのは数年先と考えられる。「温泉むすめ」に関してでは、2023年と2024年を比較すると販売グッズが増えるなど一部店舗がより力を入れているため、今後も継続して調査を行う必要があると考えている。

各温泉むすめは該当地域の地域性に依存するため、4章で述べたようにキャラクター設定も洞川地区の持つ宗教的特徴を示唆したものとなっているように推測される。しかし、山岳信仰の山々ですでに廃止されて久しい「女人禁制」を維持している大峯と深く関わってきた洞川地区において、この美少女キャラクターを修験道の伝統と関連させつつ、観光資源として積極的に活用することは難しいのではないだろうか。

図2は2024年8月3日に公開された新衣装のパネルである。茶屋 B のオーナー曰く「修験道をアピールしたいが女人禁制なので修行衣を着せる選択肢はなかった。大峯山龍泉寺での法要の服装にすることで洞川感を出した。洞川の特徴もあるので他の温泉むすめと違って肌の露出は今後も絶対にしない方針」であるという。何をもって修験道の伝統を表現しているとするのかという問題はあがあるが、「女人禁制」によって実際に制限が生じてい



図2：新衣装パネルの洞川蓮 筆者による撮影。

る状況であると言えるだろう。

このように制限が生じているからといって、修験道という伝統を脇に置いて自然などの資源を観光に活用するということは、周期的な観光客は見込めるものの季節によって変動するので不安定と言わざるを得ないと思われる。

本稿では洞川地区における「温泉むすめ」の展開を中心に取り上げており、紹介に留まった天川村が企画している「修験道体験」については、今後より一層調査研究を進めていく予定である。「女人禁制」が今後の観光振興に影響を与えるのではないかという当初の疑問は、洞川地区が修験道を用いて宿泊客、つまり登山客を増やしたいと考えていることが明らかになったことで、引き続き検討していくべき課題になったと言える。

洞川地区最大の歴史的・地域的資源であり、今日エコ意識の高まりの中で山への信仰が再び注目されていることを考えれば、洞川地区は「大峰山」、「修験道」を観光資源として積極的にアピールしていかざるを得ない状況にあるということも確かなのである。「女人禁制」という宗教的信仰を堅持しつつも、講の衰退という現実と直面している洞川地区の活性化をどのように両立していくのか。洞川温泉の苦悩はまだまだ続くと言えるだろう。

参考文献一覧

天田顕徳 2019 『現代修験道の宗教社会学』 岩田書院。

天田顕徳 2022 「羽黒山山伏集落の現状と山岳修行の変容 ―コロナ禍を通して見えてきたもの―」 国際宗

教研究所『現代宗教』22号、93-117頁。

エンバウンド監修 2022 『温泉むすめ perfect guidebook』 八重洲出版。

温泉むすめ公式サイト CHARACTER (<https://onsen-musume.jp/character/>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

温泉むすめ公式サイト CHARACTER スクナヒコ (<https://onsen-musume.jp/character/sukunahiko>) 最終閲覧日 (2024/11/4)。

温泉むすめ CHARACTER 洞川蓮 (https://onsen-musume.jp/character/dorogawa_ren) 最終閲覧日 (2024/9/11)。

温泉むすめ公式サイト EVENT 「【情報更新】2月7日(火)～8日(水)に東京ビッグサイトで開催される「宿フェス 2023」に参加が決定!7日にはステージでのトークイベントも決定!」(<https://onsen-musume.jp/event/204507>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

国土交通省 2005「映像コンテンツの製作・活用による地域振興に関する調査」。

総務省統計局 2005年国勢調査 「Ⅲ 変化する産業・職業構造」(<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/sokuhou/03.htm#:~:text=15%E6%AD%B3%E4%BB%A5%E4%B8%8A%E5%B0%B1%E6%A5%AD%E8%80%85%E5%A2%97%E5%8A%A0%E3%81%8C%E7%B6%9A%E3%81%84%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82>) 最終閲覧日 (2024/11/2)。

天川村公式サイト役場ページ 村の歩み (<https://www.vill.tenkawa.nara.jp/office/aboutus>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

天川村人口ビジョン 2015 (https://www.vill.tenkawa.nara.jp/office/wp-content/uploads/2016/03/population_vision_201512.pdf) 最終閲覧日 (2024/11/2)。

洞川蓮 公式 X (https://x.com/dorogawa_ren) 最終閲覧日 (2024/9/12)。

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 内閣府地方創生推進事務局 2022「地域再生法に基づく地域再生計画の第63回認定」「第63回(第2弾)で認定された地域再生計画について」 364 奈良県天川村 「洞川地区まちづくり計画 計画本文」

(<https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/dai63nintei/plan/b364.pdf>) 最終閲覧日 (2024/9/8)。

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 内閣府地方創生推進事務局 2022「地域再生法に基づく地域再生計画の第63回認定」 地域再生計画の概要 (<https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/dai6302nintei/6302-2shinki.pdf>) 最終閲覧日 (2024/9/9)。

奈良県公式ホームページ 「平成26年奈良県観光客動態調査報告書」 (<https://www.pref.nara.jp/secure/15577/%E3%80%90%E7%A2%BA%E5%AE%9A%E7%89%88%E3%80%91%20%E8%A6%B3%E5%85%89%E5%AE%A2%E5%8B%95%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8H26.pdf>) 最終閲覧日 (2024/9/8)。

奈良県公式ホームページ 「令和3年奈良県観光客動態調査報告書」(<https://www.pref.nara.jp/secure/15577/koukai%20reiwa3nenn%20doutai.pdf>) 最終閲覧日 (2024/8/27)。

奈良体験 先達と行く修行体験 大峯山山上ヶ岳コース (<https://nara-experience.com/detail/index/578>) 最終閲覧日 (2024/6/5)。

奈良体験 先達と行く修行体験 稲村岳コース (<https://nara-experience.com/detail/index/607>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

奈良県天川村 修験道体験 (<https://www.vill.tenkawa.nara.jp/ds/index.php>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

橋本和也『旅と観光の人類学 歩くことをめぐって』新曜社。

風呂本武典・田上敦士 2023 「『温泉むすめ』の取り組みと、コンテンツツーリズムにおける内発的發展
論援用の可能性について」広島商船高等専門学校編『広島商船高等専門学校紀要』31号、147-158頁。

文化庁 「スポーツ文化ツーリズムアワード 2021」の受賞団体を発表します～スポーツ文化ツーリズム
の普及、拡大に向けて～ (https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/93509401.html) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

報知エンターテインメント_池袋PPARCO 出店中

山中弘 2012『宗教とツーリズム 聖なるものの変容と継続』世界思想社。

(https://twitter.com/hochi_hoem/status/1686573541763043329) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

渡辺賢治 2019「人文知の表現方法と汎用性：コンテンツ『温泉むすめ』における擬人化の役割」福島工
業高等専門学校編『研究紀要』60号、91-98頁。

渡辺賢治 2019「福島県における温泉文化とコンテンツ：『温泉むすめ』を一例に」東北芸術文化学会編
集委員会『芸術文化』24号、23-3頁。

渡辺賢治 2020「『温泉むすめ』の展開と地方創生：コンテンツの可能性とその役割」福島工業高等専門学
校編『研究紀要』61号、141-150頁。

渡辺賢治 2020「コンテンツ『温泉むすめ』の展開とその可能性：イメージの創出とツーリズム」コンテ
ンツツーリズム学会『コンテンツツーリズム学会論文集』vol.7、78-86頁。

渡辺賢治 2020「メディアの中の温泉地と文化の位相：東北地方における『温泉むすめ』の展開」東北芸
術文化学会編集委員会『芸術文化』25号、57-68頁。

渡辺賢治 2021「神社と奉納—コンテンツ『温泉むすめ』がもたらす文化の再構築—」東方芸術文化学会
編集委員会『芸術文化』26号、63-73頁。

渡辺賢治 2022「持続可能なコンテンツツーリズムとしての試み—『温泉むすめ』を視座として」コンテ
ンツツーリズム学会『コンテンツツーリズム学会論文集』vol.9、36-43頁。

渡辺賢治 2022「表象文化における情報発信と需要のあり方—コンテンツ『温泉むすめ』の展開と地域主
導の文化再構築—」東北芸術文化学会編集委員会『芸術文化』27号、79-90頁。

- ¹ ここで言及している調査とは、2022年に行なった「大峰山女人禁制」の開放を求める会の共同代表者ら3人及び本稿でも言及している関係者ら3人への聞き取り調査と2024年まで行なった現地調査を指している。2022年の調査では「女人禁制」にて関わる活動や解釈、今後の展望について聞き取りを行い、2022年度に修士論文として提出した。
- ² 天川村人口ビジョン 2015、4頁 (https://www.vill.tenkawa.nara.jp/office/wp-content/uploads/2016/03/population_vision_201512.pdf) 最終閲覧日 (2024/11/2)。
- ³ 同書、10。
- ⁴ 総務省統計局 2005年国勢調査 「Ⅲ 変化する産業・職業構造」 (https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/sokuhou/03.htm#:~:text=15%E6%AD%B3%E4%BB%A5%E4%B8%8A%E5%B0%B1%E6%A5%AD%E8%80%85,%E5%A2%97%E5%8A%A0%E3%81%8C%E7%B6%9A%E3%81%84%E3%81%A6%E3%81%84%E3%82%8B%E3%80%82)) 最終閲覧日 (2024/11/2)。
- ⁵ 天川村公式サイト役場ページ 村の歩み (<https://www.vill.tenkawa.nara.jp/office/aboutus>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。
- ⁶ 同じく困難であると指摘している天田は、1980年11月に天川村商工会小規模事業対策特別推進委員会によって行われたアンケート調査「行者講社の当村利用の実態アンケート調査」及び1980年代後半以降の朝日新聞と読売新聞を対象に計量的テキスト分析を行っている。
- ⁷ 天田顕徳 2019 『現代修験道の宗教社会学』 岩田書院、63頁。
- ⁸ 同書、64頁。
- ⁹ 本調査は地区内の旅館全てを対象に行う予定だったが、筆者・旅館側の想定を超える観光客が洞川地区に訪れており、十分に時間を確保することが不可能だった。8軒の旅館に依頼し、回答を得ることが出来たのは7軒という結果になったが、この想定外の事態は洞川地区の観光客需要が急激に増していることの証拠の1つになり得るだろう。
- ¹⁰ 奈良県公式ホームページ 「令和3年奈良県観光客動態調査報告書」 1頁 (<https://www.pref.nara.jp/secure/15577/koukai%20reiwa3nenn%20doutai.pdf>) 最終閲覧日 (2024/8/27)。
- ¹¹ 同書。
- ¹² 同書、3頁。
- ¹³ 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 内閣府地方創生推進事務局 2022「地域再生法に基づく地域再生計画の第63回認定」「第63回（第2弾）で認定された地域再生計画について」364奈良県天川村 「洞川地区まちづくり計画 計画本文」 (<https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/dai63nintei/plan/b364.pdf>) 最終閲覧日 (2024/9/8)。
- ¹⁴ 奈良県公式ホームページ 「平成26年奈良県観光客動態調査報告書」、4頁 (<https://www.pref.nara.jp/secure/15577/%E3%80%90%E7%A2%BA%E5%AE%9A%E7%89%88%E3%80%91%20%E8%A6%>

B3%E5%85%89%E5%AE%A2%E5%8B%95%E6%85%8B%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E5%A0%B1%E5%91%8A%E6%9B%B8H26.pdf) 最終閲覧日 (2024/9/8)。

- 15 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 内閣府地方創生推進事務局 2022「地域再生法に基づく地域再生計画の第63回認定」 地域再生計画の概要 (<https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/dai6302nintei/6302-2shinki.pdf>) 最終閲覧日 (2024/9/9)。
- 16 内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 前掲書13、2頁 (最終閲覧日2024/9/10)。
- 17 同書、3頁。宗教を行政が積極的に観光振興に利用することに政教分離原則の問題の懸念が生じるが、計画本文では「修験道体験」は「文化体験」とされ、旅行商品の1つとして官民共働で事業に取り組んでいるようで、行政は宗教ではなく文化として捉えていると考えられる。
- 18 奈良県天川村 修験道体験 (<https://www.vill.tenkawa.nara.jp/ds/index.php>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。
- 19 奈良体験 先達と行く修行体験 大峯山山上ヶ岳コース (<https://nara-experience.com/detail/index/578>) 最終閲覧日 (2024/6/5)。
- 20 奈良体験 先達と行く修行体験 稲村岳コース (<https://nara-experience.com/detail/index/607>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。
- 21 天田顕徳2022「羽黒山山伏集落の現状と山岳修行の変容 ―コロナ禍を通して見えてきたもの―」 国際宗教研究所『現代宗教』22号、93-117頁。
- 22 コンテンツツーリズムの定義は「地域に関わるコンテンツ (映画、テレビドラマ、小説、まんが、ゲームなど) を活用して、観光と関連産業の振興を図ることを意図したツーリズム」(国土交通省 2005、「映像コンテンツの製作・活用による地域振興に関する調査」、49頁) である。
- 23 温泉むすめ公式サイト 温泉むすめとは (<https://onsen-musume.jp/news/3711>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。
- 24 温泉むすめ公式サイト INTRODUCTION (<https://onsen-musume.jp/introduction/>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。
- 25 温泉むすめ公式サイト WORDS (<https://onsen-musume.jp/words/>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。
- 26 温泉むすめ公式サイト CHARACTER (<https://onsen-musume.jp/character/>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。
- 27 文化庁 「スポーツ文化ツーリズムアワード 2021」の受賞団体を発表します～スポーツ文化ツーリズムの普及、拡大に向けて～ (https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/93509401.html) 最終閲覧日 (2024/9/10)。
- 28 温泉むすめ公式サイト前掲書、温泉むすめとは。
- 29 報知エンターテインメント__池袋P'PARCO 出店中

(https://twitter.com/hochi_hoem/status/1686573541763043329) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

³⁰ 温泉むすめ公式サイト EVENT「【情報更新】2月7日(火)～8日(水)に東京ビッグサイトで開催される「宿フェス 2023」に参加が決定!7日にはステージでのトークイベントも決定!」(<https://onsen-musume.jp/event/204507>) 最終閲覧日 (2024/9/10)。

³¹ 温泉むすめ公式サイト前掲書、CHARACTER。

³² 「温泉むすめ」ではスクナヒコと表記されているが、由来は日本神話に登場する温泉に関わる少彦名神であると考えられる。スクナヒコは「温泉むすめ」における設定では温泉の最上級神となっているが、筆者としては少彦名神に上級/下級があるとは考えていない。

³³ エンバウンド監修 2022 『温泉むすめ perfect guidebook』 八重洲出版、23頁。

³⁴ 渡辺賢治 2021「神社と奉納—コンテンツ『温泉むすめ』がもたらす文化の再構築—」東方芸術文化学会編集委員会『芸術文化』26号、63-73頁。

³⁵ 同書、81頁。

³⁶ 同書。

³⁷ 同書、69頁。

³⁸ 温泉むすめ CHARACTER 洞川蓮 (https://onsen-musume.jp/character/dorogawa_ren) 最終閲覧日 (2024/9/11)。

³⁹ 洞川蓮 公式 X (https://x.com/dorogawa_ren) 最終閲覧日 (2024/9/12)。